

**児童の実態・指導観**

本学級の児童は、課題に対して前向きに取り組もうとする児童が多い。自分の考えを発表する際には、図や式、言葉を用いて表現し、分かりやすく伝えようと積極的な児童もいる一方で、自力解決が困難な児童や、自分の考えをもっていても自信がなく説明ができない児童も見られる。既習を生かしながら考えることやペア対話、グループでの話し合い活動を取り入れ、自分の考えを伝え合うことはできているが、相手の話を聞き、分からないことに対して、内容やわけを聞くということが少なく、算数の話し合い活動の良さや必要性をあまり感じていない児童も少なくない。

2月に実施した第3学年の標準学力調査(CRT)では、「数と計算」の領域において全国比より高い結果となっていたが、わり算の「2位数÷1位数で余りあり」の問題においては誤答が多く、全国平均を下回っていた。レディネステストの結果では、既習内容において25名中18名が満点であったが、余りのあるわり算の誤答が多く、正答率は76%であった。九九を2回適用する除法計算(あまりなし)での誤答も見られることから、かけ算九九が正確に定着していないことやひき算でのミスなどが考えられる。また、数のまとまりとして考えることが難しい児童も数名いる。

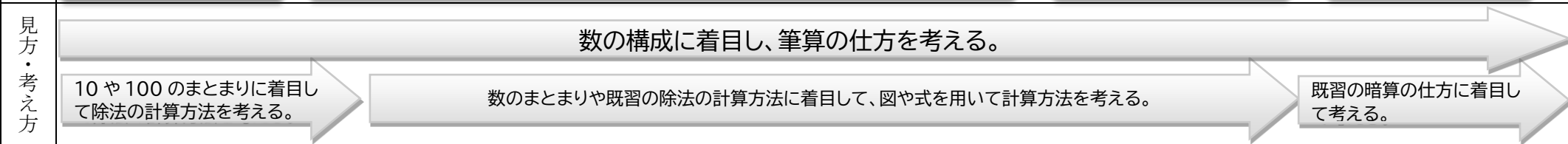
そこで本単元では、計算技能を高めることを大切にしながら、筆算を形式的に教えるだけでなく、わり算は上位から計算していくことや筆算の途中式の積が何を表しているのか数の意味を考えていながら、筆算の仕組みを理解すると共に、筆算を使うことの便利さにも気づかせていきたい。また図や式、言葉を用いて自分の考えを伝えることや、友達はどのような考え方なのかを聞き合うことで、根拠をもって考えを伝え合うことができる児童や、数学的なよさに気づくだけでなく、学習の場や生活に目を向けて学んだことを生かそうとする児童を育てていきたい。

わり算のしかたを考えよう(11時間)

数学的 活動	ア 日常生活における問題を数理的に捉え、既習の数の構成や計算の仕方を活用しながら解決したり確かめたりして算数を利用することのよさを実感できる活動
	イ 算数の学習場面から児童自ら算数の問題を見だし、既習事項を活用して問題を解決し、解決過程をふり返り統合的・発展的に考察する活動
	ウ 問題解決における思考の過程や判断の結果などを図や式などを適切に用いて数学的に表現し、思考した過程や結果を伝え合う活動

目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>10や100のまとまりを用いて、乗法九九1回の適用で商が何十や何百になる除法(余りなし)の計算の仕方を考え、説明することができる。</li> <li>2位数÷1位数(余りなし)の計算方法を考え、図を用いながら説明することができる。</li> <li>2位数÷1位数(余りありで、各位ともわりきれない)の計算方法や検算方法を考え、説明することができる。</li> <li>2位数÷1位数(余りありで、十の位でわりきれない)筆算の仕方を考え、説明することができる。</li> <li>3位数÷1位数=3位数(余りありで、各位ともわりきれない)の筆算の仕方を具体物や式を用いて考え、説明することができる。</li> <li>3位数÷1位数(商に空位を含む)の筆算の仕方を考え、説明することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3位数÷1位数=2位数(首位に商がたたない)の筆算の仕方を考え、説明することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>暗算した過程を振り返り、自分に合った計算の仕方を考え、今後の学習に生かそうとしている。</li> <li>単元の学習を振り返り、価値付けたり、今後の学習に生かそうとしたりしている。</li> </ul>
----	--	---	--

学習活動	<p><b>1. 何十、何百のわり算(1時間)</b></p> <p>1. 問題場面から立式し、その式になる理由を考える。 80÷4、600÷3の計算の仕方を考え、説明する。</p>	<p><b>2. わり算の筆算(1)(6時間)</b></p> <p>2. 問題場面から数量の関係を捉え、立式する。 72÷3の計算の仕方を考える。 3. 72÷3の筆算の仕方をまとめ、答えの確かめをする。 4. 余りや各位の商の大きさに着目し、2位数÷1位数の筆算の誤りに気づき、説明する。 5. 「基準量」や「比較量」から「倍」を求める練習問題をする。 6. 問題場面から数量の関係を捉え、立式する。 734÷5の筆算の仕方を考え、説明する。 7. 3年で学習した除法も筆算で計算できることを知り、筆算の理解を深める。</p>	<p><b>3. わり算の筆算(2) 本時(1時間)</b></p> <p>8. 問題場面から数量の関係を捉え、立式する。 256÷4の計算の仕方を考え、説明する。本時 ●【評価問題】被除数と除数を比べ商が十の位からたつ計算を見つけ、説明する。</p>	<p><b>4. 暗算・まとめ(3時間)</b></p> <p>9. 74÷2、740÷2の暗算の仕方を考える。 10、11 学習内容を適用して問題を解決する。</p>
------	---	---	--	--



**学習評価**

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>既習の乗法九九を1回用いて商を求める計算及び簡単な2位数を1位数でわる計算の方法を活用し、2～3位数÷1位数の計算をすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>数の見方や構成に着目し、計算の仕方を考え、説明している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習の基本的な計算を基に考えたことを振り返り、多面的にとらえ、検討してよりよいものを求め、計算できることの良さに気づき、今後の生活や学習に活用しようとしている。</li> </ul>

**単元の系統性、関連、発展**

**3年**

- 「わり算」
- 除法の意味と演算記号
  - 九九を1回適用する除法計算(余りなし)
- 🔍数の構成に着目し、計算の仕方を考える。
- 「あまりのあるわり算」
- 九九を1回適用する除法計算(余りあり)
  - 余りと除数の大きさの関係
  - 答えの確かめ方
- 「大きい数のわり算 分数とわり算」
- 何十÷1位数の計算
  - 商が2位数になる簡単な除法計算

**4年**

- 「わり算の筆算(1)」
- 除法の意味と演算記号
  - 九九を1回適用する除法計算(余りなし)
- 🔍数の構成に着目し、計算の仕方を考える。

**本単元で育成する資質・能力**

第4学年 A 数と計算

(3) 整数の除法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。  
(ア) 除数が1位数や2位数で被除数が2位数や3位数の場合の計算が、基本的な計算を基にしてできることを理解すること。また、その計算の仕方について理解すること。  
(イ) 除法の計算が確実にでき、それを適切に用いること。  
(ウ) 除法について、次の関係を理解すること。  
(被除数) = (除数) × (商) + (余り)

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。  
(ア) 数量の関係に着目し、計算の仕方を考えたり計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりすること。

**本単元終了時の目指す児童像**

- 2～3位数を1位数でわる除法計算について理解し、その計算が確実にできる。
- 数量の関係に着目して、除法計算の仕方を考えたり計算の確かめをしたりすることができる。
- 既習の基本的な計算を基に考えた過程をふり返り、今後の学習に生かそうとしている。

「わり算の筆算(2)」

- 2～3位数÷2位数の筆算形式
  - 仮商のたて方と修正の意味
  - 除法について成り立つ性質
- 🔍数の構成に着目し、計算の仕方を考える。

「小数のかけ算とわり算」

- 整数、小数÷整数(商が小数)の筆算形式

**5年**

- 「小数のわり算」
- 小数でわる除法の意味と計算
  - 整数、小数÷小数の筆算形式
- 🔍数の構成や乗除法の性質に着目し、計算の方法を考える。

